

# 岐阜県支部だより

第10号 平成25年4月6日

- 1 巻頭言
- 2・3 支部研究会報告
- 4 事務局より



## 巻頭言

### 教育相談・生徒指導の新しい流れと

### 岐阜県大会

美濃加茂市立下米田小学校

校長 山田日吉

先般広島のとび治山大学で行われた「国際生徒指導シンポジウム」に参加しました。この会は学校教育相談学会やピアサポート学会で活躍してみえる栗原慎二広島大学教授の企画されたもので、アジアで最も教育相談・生徒指導が進んでいると云われている「香港」の先生方を迎えて行われたものでした。2日間のワークショップやシンポジウムなどでの中心テーマは「包括的生徒指導」でした。

マルチレベル・マルチエリアをターゲットとした予防・開発的な生徒指導・教育相談の推進について香港での実情をワークショップ形式で学ぶとともにシンポジウムでは日本の先進地である岡山県総社市・大阪府堺市・広島市・新潟市などからの報告も耳にすることが出来ました。

多くを学んだ2日間でしたが、同時に昨年度の岐阜県教育相談学会20周年記念シンポジウムで話した「今後の学校教育相談充実のための3つの課題」について、私自身が改めて確信を持つに至った2日間でもありました。

記憶に乏しい方もあると思いますので再度ここに整理して示します。

#### 1 スクールカウンセリングスタンダードの確立。

以下の3点に配慮して教科の指導要領のように、学校教育相談についてカリキュラム化が必要。

- ① 授業のユニバーサルデザイン化
- ② スクールガイダンスカウンセラーなどの専門職の創設。

③コーディネーター職の位置づけ。

#### 2 教師の教育相談にかかわる資質の向上

教師の専門性に、総合的、発達的なアプローチにかかわる知識、技能の向上が不可欠。

教師のアセスメント能力の向上と、よりきめ細かな援助についてチームとしてかかわる時に必要な力の向上が不可欠。学会の学術研修団体としての役割の中核。

#### 3 スクールカウンセリングネットワークの構築

財政事情や官製の教育研修について格差が一層進んでいる現状では、各学校は県や市町村を超えたネットワークや、学校を取り巻く地域や教育行政が大学などの研究機関との連携が益々必要となり、日本の学校教育相談の充実にもむけて様々な相互協力やコラボレーションが求められる。

幸いにして今夏予定されている学校教育相談学会岐阜大会では、岡山県総社市の前市教委学校教育課長にして本学会中国・四国理事の藤井和郎氏（現：総社西中学校校長）や栗原先生の発表もあると聞き及びます。私の感じている「今後の学校教育相談充実のための3つの課題」について岐阜大会での学校教育相談・生徒指導の新しい流れを学びながら更に整理出来るのではないかと期待に胸がふくらみます。岐阜大会が楽しみになります。



# ☆ 支部研究会報告 ☆

## ◇第3回研修会

開催日：平成24年10月20日（土）  
会場：朝日大学（岐阜県瑞穂市）

### 1. 講話

#### 『学校教育相談と乗馬療育

～誰もが自信をもって生きられるために～

講師：岐阜県本巣市立一式小学校教頭

近藤 聡 先生

みどり動物病院院長

近藤 みどり 先生

ホースセラピーよりも「療育・教育」的要素に焦点を当てた、治療的乗馬を実践されている近藤先生に講演していただきました。「馬」という動物は、自分に触れる人のパーソナリティ等に関係なく、無条件でその人を受け入れてくれる動物です。自分以外の大きな動物に身体と心を預ける体験は緊張を伴いますが、挑戦して受け入れられたという経験ができること、感覚機能が統合されるという身体的効果、馬との間に育まれた絆を通して自尊感情が高まるという精神的効果がみられるそうです。馬を介在させることで、自分の意思を伝える必要性、適切なコミュニケーションの仕方を学ぶことができることと、多面的多角的な観察をすることで、子どもの実態を正確に掴む大切さを学びました。

### 2. 事例研究&実践交流

事例研究と実践交流は2つに分かれて行いました。私は養護教諭である曾我部恵美先生より提供された事例「発達障がいのある児童への支援～保護者との連携の在り方～」の分科会に参加しました。子どもがどうしてそのような言動をとるのか、手立てはあるのではないかと、見落としている部分はないだろうか・・・多くの意見が交換されました。

参加者それぞれは、勤務している学校種もキャリアも異なりますが、大事な子どものために何ができるのだろうという思いは同じです。いろいろと考え手立てを講じるものですが、事例研究会で出てくる新たな意見に頷いたり、新しい発見を感じたりすることができるので、一つの事例から学べることは大きいと改めて感じました。

（文責：永田 智子）

## ◇第4回研修会

開催日：平成24年12月1日（土）  
会場：朝日大学（岐阜県瑞穂市）  
参加人数：約30名

### 1. 全体会

古田副理事長のごあいさつの後、夏に開催された全国大会の報告とともに、来年度の岐阜大会の準備の進捗状況が報告されました。

### 2. 事例研究会&実践交流会

#### ○事例研究会 A

「いじめ」の起因となる子どもの背景を考える

#### 事例提供をして

笠松小学校 養護教諭 佐々木 文枝

今年度、勤務校で教育相談を担当することになりました。どのような働きをするのか、試行錯誤の毎日でした。そこで、教育相談学会で事例を提供させていただき、そこでの学びを本校でも生かしていきたいと思いました。

提供した事例は、関係した子どもの個性や家庭の背景、父母の考え方を見極め、慎重にそして丁寧に対応していく必要がありました。私は主に、子どもを支える保護者や担任への援助という立場をとることになりました。

事例研究会に参加された先生方からは、家庭内の人間関係（特に親子関係）や家族の在り方の大切さや、発達段階に応じた集団作りについてアドバイスをいただきました。中でも、「母親の言動や考え方はなかなか変えられないが、A男の内面を引き出し育てていくことはできる。」という言葉が、印象に残りました。この他、関係機関の連携の中で行政の「母子支援課（地域によっては福祉課等）」にもパイプをつないでいく事を学びました。

事例研究会を終え、改めて校内の体制を振り返った時、教育相談担当者が状況を把握し、連絡、調整をしていくことの大切さ、そして職員の立場を生かすつながりを作っていくことの必要性を痛感しました。貴重な機会をいただきありがとうございました。

#### ○事例研究会 B

「起立性障害を抱える児童への支援」

岐阜大学附属小学校 荒川千登世先生

事例発表の後、郡上や東濃など県内各地から参加された先生方15名で、不登校傾向と混同しやすい「起立性調節障害」について学ぶとともに、そのように診断された子どもへの支援の在り方について活発に意見を交わしました。子どもの気持ちに寄り添いながら自己決定させていくことや、担任へのバックアップなどの校内体制、病院等の外部機関との連携など様々な視点から支援方法を考えていくことができました。

(文責： 大坪 一才恵)

## ◇第5回研修会

開催日：平成25年2月16日(土)

会場：朝日大学(岐阜県瑞穂市)

参加人数：約30名

### 1. 全体会

全体会では、下野理事長のあいさつの後、来年度8月に開催を控えた、全国大会の準備の進捗状況が報告されました。正会員、支部会員の皆様も是非ご協力ください。(詳しくは本紙4ページ、本学会Webページ等をご覧ください。)

### 2. 講話

『学校教育相談で大切にしたいこと ~養護教諭・教育相談係・相談員・SCとして~』  
講師：岐阜聖徳学園大学附属中学校養護教諭  
飯田 孝栄 先生

長年、学校現場においてご活躍されている、飯田孝栄先生を講師としてお招きし、様々な立場での経験を通して、学校教育相談で大切にしたいことを話していただきました。教育相談の黎明

## 会員の活動紹介

### 飯田 孝栄 先生

私は時々、不登校Aさんからの手紙や非行を重ねるBさんとの交換ノートを読み返します。飾らない言葉を連ねる一行に、豊かな感受性ゆえに持つ、深い寂しさや辛さを感じます。誰にでも見せるわけではない彼らのメッセージを感じてほしいとはじめたのが『心の絵本』作りです。『ミーとバジル』は、保健室登校Cさんとの関わりから生まれました。「もっと力を抜いたら見えてくるよ」と言いたいのです。『あわぶくのしょうたい』は、「俺が俺でなくなる！」と泣いたB君との関わりから。人は変わろうとする時こんな気持ちになれたらいいな」と私自身の願いでもあります。そして、『ムクのおねがい』は、すばらしい先生方や子どもたちとの出会いを「ありがとう」の言葉でつないでみました。これらの絵本を授業の中で使っ

期には数多くの批判を受け、苦しい時期も過ごされたそうです。そんな中、飯田先生が大切にされてきたことに『一人一人と向き合うこと』『個に寄り添うこと』を挙げられました。経験談を交えて話される内容は、大切にされてきたことを具現化する興味深いものであり、どれも納得させられるものでした。

また、養護教諭として実践された例として、「保健室での様子を伝える(職員会等での提案)」「心の健康自己評価と事例研の実施」「通信を職員全員に書いてもらう」を挙げられました。

飯田先生、ありがとうございました。

### 3. 事例研究会&実践発表会

#### A「『感情日記』

~子どもの能力を育てる指導~

富加町立富加小学校教諭 伊藤直敬先生

#### B「保健室登校児童への教室登校支援

~担任との連携を通して~

関ヶ原町立関ヶ原小学校 養護教諭

澁谷 真紀先生

分科会Aに参加したのですが、伊藤先生は、学級担任として学級内の児童のよりよい人間関係を望まれています。そこで、教育のほとんどの現場で行われている日記指導を通して、感情語彙の増加を目指しました。それによって、社会的適応につながると考えられたからです。

約3カ月の実践で、感情語彙の表出の増加があり、日記の内容にも充実が見られたそうです。今後の課題として、感情語彙の増加が児童の行動の変化につながるための手立ての多様化を挙げられていました。(文責：小笠原 淳)



# ご案内

## いよいよ岐阜大会！

以前からお知らせしていましたが、いよいよ8月に第25回総会・研究大会が、岐阜で開催されます。現段階で分かっていることをご知らせします。

【岐阜大会テーマ】

「一人一人を認め 育て つなぐ

### 学校教育相談

1 期日 平成25年8月9日(金)10日(土)  
11日(日)

2 会場 朝日大学(岐阜県瑞穂市)

3 日程

#### ●8月9日(金)

- ・支部活動推進協議会 14:00~16:00
- ・支部代表者会 16:15~17:45
- ・支部代表者懇親会 18:00~20:00

#### ●8月10日(土)

- ・受付 9:00~9:30
- ・総会 9:30~11:00
- ・記念講演 11:00~12:30  
演題「人と人とのつながりや思いやりを育てる学校教育相談」  
講師 富永良喜先生 兵庫教育大学教授
- ・研究・実践事例発表、ポスター発表、自主シンポジウム 13:30~16:00
- ・特別講演 16:10~17:00  
演題「人との関係を作るソーシャルスキル~接近化スキルと距離化スキル~」  
講師 宮本正一先生 岐阜大学教授
- ・会員懇親会 17:20~20:00

#### ●8月11日(日)

- ・受付 9:00~9:30
- ・研究・実践事例発表、ポスター発表、自主シンポジウム、ラウンドテーブル 9:30~12:00
- ・小泉英二記念賞受賞者講演 9:30~12:00

#### ●参加費用

- ・研究大会参加費 7,000円
- ・支部代表者懇親会 4,000円
- ・会員懇親会 4,000円

#### 4 ワークショップ

8月9日(金)には、ワークショップも開かれ

ます。開催されるワークショップは、6コースあります。

#### ●Aコース

「チームで取り組む学校教育相談」  
(水野治久先生・大阪教育大学)

#### ●Bコース

「不登校問題から見える子どもの世界ー思春期の子ども理解と実践的課題ー」  
(春日井敏之先生・立命館大学)

#### ●Cコース

「誰もが行きたくなる学校作りーこれからの生徒指導・教育相談・特別支援をデザインするー」  
(栗原慎二先生・広島大学)

#### ●Dコース

「学校教育相談における特別支援教育」  
(曾山和彦先生・名城大学)

#### ●Eコース

「支え合う関係をつくる協同学習の実践」  
(石田裕久先生・南山大学)

#### ●Fコース

「学校教育相談における保護者連携ーいじめと自殺を視野に入れてー」  
(橋本治先生・岐阜大学大学院)

#### ●参加費

- ・ワークショップ参加費 一般 8,000円  
学会員 7,000円  
学校カウンセラー 4,000円  
岐阜県内在勤教職員 4,000円

6コース全て、現在の学校教育相談で話題になり注目されている内容ばかりです。詳しいことについては、「第14回夏季ワークショップのご案内」を参照してください。(本部や支部のホームページからも見られます。)

研究・実践事例、ポスター発表、自主シンポジウム、ラウンドテーブルの各発表者や内容もほぼ決まってきました。こちら詳しいことは「第25回総会・研究大会(岐阜大会)発表者と内容一覧表」を参照してください。

是非とも多くの会員の皆様の参加をお待ちしております。

(文責：木村正男)

日本学校教育相談学会岐阜県支部会報第10号

2013年(平成25年)3月15日発行

発行:日本学校教育相談学会岐阜県支部

編集:日本学校教育相談学会岐阜県支部広報委員会

ホームページ <http://www.1.ocn.ne.jp/~sodangif/>

E-mail: sodan-gifu@plum.ocn.ne.jp